

諸要因が考えられた。すなわち、大正期の保育界は、それ以前の保育界の年の歩みに比し、比較し得ぬほどに充実し、活気に充ちた動きを呈したことがその一つである。倉橋惣三という優れた指導者を受け入れて、新しいものを撰取しようとする保育界の機運は、研究会・講習会などの諸会合の頻発を生み、それら会合は一般社会の注目をも浴びることもあって、外部社会の関心を高める一助となった。更に、第一次大戦後の世界的風潮であった婦人と児童への関心は、わが国においても例外ではなく、大正10年頃は児童保護運動が華々しく展開されている。加えて大震災後に一時的にもせよ公的な託児保育が営まれたりして、幼児の福祉に関する社会的な自覚が高

共同研究 大正から昭和期の保育界

幼稚園令を生み出した力

宝仙学園短期大学 岡田 正章

大正十五年制定の幼稚園令は、公布当時の文部省訓令の示すように、託児所としての機能を果すよう目ざしていたと思われる。しかし、こうした企図を、大正初年から大正二年頃までの文教政策の中に伺うことは困難である。大正十一年から幼稚園関係者によって

まりつつあった。こうした時機に、行政にも巧みに乗じて、保育界の一体となった動きが展開され、それが社会一般にも単なる幼稚園の法令としてではなく、「幼児を護る法令」として受け入れられている。その結果、それらの動きが公的にも認められて、独立の法令制定という結実をみせたものといえよう。

付記 本誌の原稿の各所に見られる「プリント」とは、大会

当日希望者に配布した「日本保育学会第十二回大会発表要項」をいう。希望のかたは、東京家政大学児童学研究室（東京都板橋区板橋町六丁目）に申し込まれたい。（頒価二五〇円）

始まった国会への幼稚園令制定の陳情運動も、専ら幼稚園の独立法律を作ること望むのみで、幼稚園の発達は従来通りの幼稚園にしようとするものであった。とすれば、幼稚園令に当局をしてこのような作文をさせた方はどこにあったか。

われわれは、これを大正初年以降の乳幼児保護運動を生んだ社会情勢の中に見出し得る。その第一は、漸く発達してきた資本主義、よって働かねばならなくなった婦人が増加し、こゝに纏縮する幼児の保護が喫緊の問題となった。この場合、最初から保育所を労資協議の緩和を図るための方便と考えていたものと、山川菊栄のように育児を専門家に任ずべき時代がきたと考えているものとの違いが生

じていた。幼稚園関係者はこのいずれれを自分たちの立場にするかに
ついて明確な判断をもっていたとはいえないが、漸くそうした社会的
必要に動かされ、苦しい経営の中に、簡易幼稚園などの工夫を試
みていた。

他方、こうした実際界の動きの中にあつて、文部省督学官であつ
た森岡常威持論の幼稚園論が注目をひく。それは、幼稚園に労働者
家庭に対する社会政策的役割を負わせようとはしているが、その基
本線は、幼児期の発達が大正三年間の学習より心身発達上大きな意
味をもち、その時代の差別扱いが人間不平等の永遠の原因となる、
という教育論にあつた。

この両側面の力が幼稚園令に託児所としての機能を負わしたとい
えようが、知育と鍛錬を第一とする当時の文教政策には、幼児期の
教育は未だ厳密には重要視されず、形式的な法文の発布に終つたと
いわねばならないであらう。

昭和期の保育運動

愛知県立女子大学 宍戸 健夫

まず、保育運動というのは何か、ということを定義してかからね
ばならぬ。保育を運動としてとらえていいのかどうか、ということ
自体問題になってくるからである。

保育運動は教育運動などと同様、保育のための制度・内容・方法
・施設・機関などの改革や設置をめざす同志的集団活動である。こ
れには啓蒙のための宣伝活動が必ずともなっている。われわれは保

育史をこのような「運動」としてとらえる試みの重要性をかんがえ
ているのであるが、それがとくに注目されなければならないのは反
体制的運動としてあらわれたときである。

ところが、保育運動には「半官半民」の集団活動が多い。それは
それなりに評価しなければならないのであるが、一方、反体制的民
間運動として保育運動が存在していたかどうか。存在していたとす
るならばどのようなものであつたかを明きらかにしていくことは重
要であらう。

その一つとして、保育問題研究会（会長城戸幡太郎 昭和十一年
発足）をかんがえてみよう。

この研究会とその運動がおこってくるのには、実証主義的心理学
の研究がとくにかんがえられなければならない。その保育思潮をみ
るに、「社会環境」、「生活力とくに生産的活動能力」、「社会生活と
くに協同生活」の重視などがあげられるであらうが、その一つひと
つは昭和という時代背景をぬきにしてはかんがえられない。

この保育思潮の提唱は、研究者と保母たちとの一体となつた研究
活動を生みだし、保育の内容・方法の上にも変化をあたえたのであ
る。

昭和期における保育会の動き

都立立川短期大学 水野 浩志

大正十五年の幼稚園令制定以前におけるわが国の主要保育研究団
体としては日本幼稚園協会（明・29・フレールベル会として発足）と京